

## 貝リングル情報

(アコヤガイ・立神浦 赤崎)

R5-23号

データ提供：(株)ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所 養殖・環境研究課

TEL 0599-53-0016 FAX 0599-53-2225

## 【概況（10月10日 0時～10月11日 0時）】

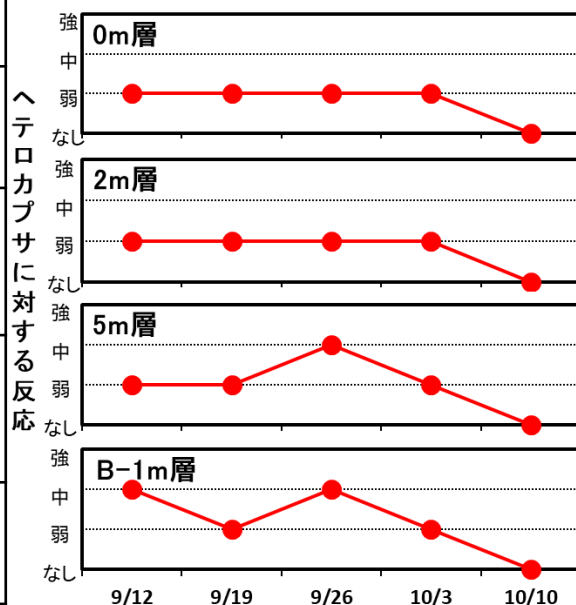
- 測定している4層でヘテロカプサに対する反応は『なし』でした。
- ヘテロカプサは、10月10日の立神浦赤崎における採水サンプル1mLあたり、0mで2細胞、2mで2細胞、5mで6細胞が確認され、B-1mでは確認されませんでした。
- いずれの水深においても、10月9日まではヘテロカプサの反応がみられていました。

【おしらせ】次号は、10月18日（水）の予定です。

## 【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応※	備考
0 m	なし	10/4(9-17, 20-23時), 5(0-14時), 6(2-5, 7-13時), 7(6-10時), 8(5-15時), 9(6-9時) にヘテロカプサに対する反応がみられました。
2 m	なし	10/4(5-6, 16-18時), 5(0-2, 6-9時), 6(5-12時), 7(13-14時), 8(14-17時), 9(4-11時) にヘテロカプサに対する反応がみられました。
5 m	なし	10/4(2-10, 17-23時), 5(0-4, 13-15時), 6(0-8, 10-13時), 7(2-7, 10-12, 19-22時), 8(5-6, 16-24時) にヘテロカプサに対する反応がみられました。
B-1 m	なし	10/4(3-10, 17-24時), 6(1-7, 12-14時), 7(1-8, 10-13, 22-23時), 8(3-6, 16-21時) にヘテロカプサに対する反応がみられました。

## 【直近の状況（5回分）】



※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。  
⇒ 極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。

弱：スパイク波形の集中が時折みられる。  
⇒ 貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

中：連続的なスパイク波形がみられる。  
⇒ 強いストレスがあり、長く続くると衰弱・へい死の危険がある。

なし：応答なし ⇒ 影響なし。

## ●本紙について

- 英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リングル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- 毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

## ●貝リングルについて

- 二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- 英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

## ●センサーの設置場所と水深

- 湾奥部（立神浦赤崎）の0・2・5・B-1m層に設置しています。
- B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

## ●利用上の注意点

- 海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- 本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

